南北診療所の統合について

須田　勝　議員

地域住民の理解は

質問 旧赤城村時代から医療の拠点として歴史があり、地域住民の健康、安心、そのものの役割を果たしております。統合も時代かと思うが、地域住民の理解は得られているか。

答弁 診療所の統合については、旧村時代に村議会での質疑の様子が村議会だよりに掲載され全世帯に配布されていました。今回の診療所統合に関する検討結果は、市議会に報告後地域審議会に報告しましたが、今後、住民説明会を開催し地域の方の理解を得たい。

通院の交通手段は

質問 現在のバス路線でなく町内一円のタウンバス運行の考えは。また、子持地区からの交通手段として、浅田、敷島間の橋りょう建設は平成22年4月までに完成可能か。

答弁 診療所の統合に伴う課題として、患者の交通手段の確保が重要と考えています。具体的な対策については患者アンケートの結果等を踏まえ検討します。橋りょう整備については、現段階ではおおむね6年の期間は必要かと考えています。

統合は是か非か

質問 今期定例会の補正予算に統合関連事業として設計委託料が提案され、本会議で否決されたが、今後どのように考えているか。

答弁 今後、地元赤城地区において住民説明会を開催し、地域の方々の理解を得るとともに、患者アンケートの結果等も踏まえて整理のし直しを行ったうえで、改めて市議会の議決をいただけるよう準備を進めていきます。

赤城北診療所

リサイクルゴミの収積所

市民参加による共生の社会を

安力川　信之　議員

ボランティアバンク創設を

質問 市民が参加しやすいボランティア活動のため、ホームページや広報などに、団体による登録や活動紹介の環境を。

答弁 市では、（仮称）NPO・ボランティアセンター設置を検討しています。センター業務には、ホームページの開設や団体の紹介、相談業務、講演会、セミナー、ボランティア育成講座等の実施があり、組織体制等総合的に検討を進めます。

エコキャップ運動で環境教育を

質問 エコキャップ運動を本市としてどう考えるか。また、教育の場での展開は。さらに、ごみの減量化と再資源化の取り組みは。

答弁 身近な生活の問題が地球環境や命の問題にまで関係することを学ぶのに有効であり、各学校に紹介したい。生ごみ減量に加え枝葉破砕機購入補助を設けました。地域での資源ごみ回収は家庭ごみの17％が再資源化されています。

地デジの取り組みは

質問 難視聴世帯への対応と、国や県に要望し、中継局や共同受信施設などへの対策を。また、悪質商法にだまされないための広報活動を。

答弁 難視聴対策として、国や放送事業者に、中継局への民放局設置を要望しています。地形による難視聴のため、共同受信施設を設けている組合に対しては、地デジ対応の改修費用を補助する制度を創設し、支援を進めます。また、消費生活センターでは、悪質商法の被害から守るための啓発活動を行います。

第三セクター、公社の経営状況と地域の特性を活かしたまちづくりについて

金子　渡　議員

スカイランドパークは赤字

質問 19年度は2000万円を超える経営赤字。今後の運営方針、経営見直しは。

答弁 遊園地業界全体の低迷もあり今後も厳しいことが予想されますが、引き続き経営努力していきます。

温泉施設の今後の運営は

質問 小野上温泉は公募により民間企業が指定管理者になった。今後も指定管理は公募で決めていくのか。

答弁 基本的な方針としては、原則、公募によるものとしているところです。

質問 たちばなの郷城山、SUNおのがみの宿泊施設の指定管理の方針は。

答弁 ご質問の2施設については、平成21年度中に事務を進めていきます。

質問 第三セクター、公社の経営は様々な角度からの見直しが必要だと思うが。

答弁 各施設とも厳しい経営状況が続いていますので、さらに経営改善に努めるよう指導していきます。

地域の特性が活きるまちを

質問 フルーツ酒特区に認定されたが、今後の展開は。

答弁 特区を活用しようとする事業者も見込まれており、まちづくりの一環として取り組んでいきたい。

質問 豊かな自然を活かしたグリーンツーリズムや菜の花エコ、小水力発電等を活かしたバイオマスタウンに積極的に取り組む考えは。

答弁 これからは広い渋川の自然や地域資源を活かすため検討していきたい。

質問 観光立国の取り組みが進む中で渋川市も「観光立市宣言」をしてはどうか。

答弁 現段階では考えていませんが、今後検討していきたいと思います。

スカイランドパーク遊園地

小学校の保健室

不登校・保健室登校、麻しん感染について

高橋　敬　議員

質問 不登校・保健室登校の現状と、原因・対策は。

答弁 昨年度は全国と比べやや少ない状況でした。情緒的混乱や人間関係等原因は様々ですが、全校一致の体制づくりや個別相談の充実など行っていきます。

質問 不登校等を生むことのない魅力ある学校づくり・学校間の連携は。また、卒業後の支援を教育行政のみでなく仮称「不登校等対策協議会」を設置して全庁的な中でサポートを。

答弁 児童生徒一人一人が学校生活の中で生かされ、自己充実感が味わえるようにするとともに、小中学校の連携を深めます。また、関係機関と連携した支援体制づくりに努めます。

麻しんの感染拡大防止を

質問 麻しんの感染が拡がっている。本市の状況と若者に発症している原因は。

答弁 昨年度の渋川地区管内感染者は8人です。若者の発生原因は1回の予防接種と未接種が原因です。

質問 現在の小学校1、2年生は、新制度による2期の予防接種率が低かった。2期目未接種者への公費負担で接種率向上を。

答弁 予防接種は県内相互乗り入れで実施しています。2回の予防接種が望ましいので、公費負担は他市等の状況を考慮し検討したい。

質問 今年から始まった13歳と18歳のワクチン追加接種率が低調。本市の状況と予防接種を受けやすい環境づくりを。

答弁 7月までの接種状況は3期が44%、4期が51%で県平均以上でした。地区医師会とも連携して早期接種の啓発をします。